

まな い みち か
学ぶことは 生きてきた道を ことばに変え

あした
そして 明日に つなげること

こうし くろかわ ゆうこ
講師 黒川 優子さん

◆ 自己紹介

- ・1957年大阪市鶴橋で生まれる。在日朝鮮人(朝鮮半島をルーツに持つ人)の多重地域。
後に知ることになるが、通学していた大阪市立玉津中学校にも戦後すぐの一時期「夜間学級」が開設されていた。
- ・1980年度から東大阪市の中学校(小阪・太平寺)に「国語」科担当や支援学級担当として勤務。
東大阪市在日外国人教育連絡協議会(市外教)事務局を経験。「夜間中学校」を知る。
- ・2000年度から9年間、金岡中学校に勤務。校区で開かれている「識字教室」に、学習パートナーとして6年間関わる。
- ・2009年度から8年間、東大阪市立太平寺夜間中学校(正式には夜間学級。最終年は、布施中学校夜間学級)に勤務。
- ・2017年3月に退職後、大阪市西成区での聞き取りをきっかけに、「学びの場(「鶴見橋よみかきありがとうの会」)」を始める。
- ・「夜間中学史料収集・保存・管理委員」として『夜間中学関連史料集』刊行を準備中。「基礎教育保障学会」理事。

◆ 識字教室との出会い

2003年から2008年まで、「識字教室」への参加を通じて、北本ミツ子さんに出会う。30年以上識字教室に通い、さまざまな場で体験を語ってきた人。後に、絵本『しきじのみっちゃん』の共同制作。

◆ やかんちゅうがく 夜間中学とは

せんご こんらん なか ひんこんさべつ がっこう い こ きょういくほしやう はじ
戦後の混乱の中、貧困差別などのために学校に行くことができない子どもたちへの教育保障として始まる。

もっと おお ねん こう にん ぜんこく や かんちゅうがっこうけんきゅうかい しら ご しゃかいじょうきやう へんか
最も多かった 1955年には、89校5208人(「全国夜間中学校研究会」調べ)。その後、社会状況の変化などにより

げんしやう おおさかふ ねん おおさかしりつてんのうじやかんちゅうがっこう けいき かくち たんじやう
減少。大阪府でもほとんどなくなるが、1969年「大阪府立天王寺夜間中学校」ができたことを契機に各地で誕生。

ひがしおおさかし ねん ちやうえいやかんちゅうがっこう かいこう
東大阪市でも 1972年「長栄夜間中学校」開校。

やかんちゅうがく おんけい がくしゅう けんぽう きやういくきほんほう さだ きやういく う けんりほしやう
「夜間中学」は、恩恵やスキルアップのため学習ではなく、憲法や教育基本法に定められた 教育を受ける権利保障
の場。

◆ やかんちゅうがく しきじきやうしつ じやうきやう へんか 夜間中学や識字教室をめぐる状況の変化

ぜんこく しきじちやうさ ねんいらいおこな
全国への識字調査は、1948年以来行われず。

ぎ む きやういくほしやう ほうりつ せいてい かんけいしゃ どりよく
義務教育保障への法律も制定されなかったが、関係者の努力により

ねん ぎ む きやういくきかいかくほほう ぎ む きやういく だんかい ふつうきやういく そうとう きやういく きかい かくほう かん ほうりつ せいりつ
2016年「義務教育機会確保法 義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」成立

しゅうがく きかい ていきやうなど だいじゅうよんじやう ちほうこうきやうだんたい がくれいき けいか もの りやく がっこう
(就学の機会の提供等) 第十四条 地方公共団体は、学齢期を経過した者(略)であって学校にお

ける就学の機会が提供されなかったもののうちにその機会の提供を希望する者が多く存在することを

ふ やかん たとくべつ じかん じゅぎやう おこな がっこう しゅうがく きかい ていきやう た ひつやう
踏まえ、夜間その他特別な時間において授業を行う学校における就学の機会の提供その他の必要な

そち こう
措置を講ずるものとする。

国勢調査では

みしゅうがくしゃ やく まん せん にん さいしゅうそつぎょうがっこう しょうがっこう もの やく まんにん
未就学者—約9万4千人 最終卒業学校が小学校の者—約80万人

もんぶかがくしょう れいわ ねんこくせいちょうさ けっか
(文部科学省「令和2年国勢調査の結果」)

じっさい いじょう ひと ぜんこく や かんちゅうがっこうけんきゅうかい すうじゅうまんにん しさん
実際には それ以上の人がいる!(全国夜間中学校研究会では100数十万人とも試算)

夜間中学の現状

もんぶかがくしょう やかんちゅうがく せっち けんとうじょうきょう さんしょう
文部科学省HP「夜間中学の設置・検討状況」参照

◆ 私が経験した公立夜間中学校での生徒たち

わたし とも まな さい さいだい せいと
私が共に学んだ16歳から80歳代の生徒

ひんこん せんそう まな にほんじんこうれいしゃ
・貧困や戦争などで学べなかった日本人高齢者

ふとうこう じゅうぶん まな にほんじんせいと
・不登校などで十分に学べなかった日本人生徒

さべつ ひんこん まな ざいにちちょうせんじん
・差別や貧困のため学べなかった在日朝鮮人

ちゅうごくじん ちゅうごくざんりゅうこ じ ふじんかんけい きこくしゃ かぞく
・中国人(中国残留孤児・婦人関係の帰国者や家族)

につけい じん じん
・日系ペルー人、ブラジル人

じん ちち なんみん
・ベトナム人(父がベトナム難民)

たいわんしゅっしんしゃ など
・台湾出身者 等

げんざい ふ せ お き べ りょうこう にほん かんこくちょうせん ちゅうごく せいと ざいせき
現在、布施・意岐部の両校では、日本・韓国朝鮮・中国・ネパール・フィリピンなどの生徒が在籍。

◆ 大阪府西成区での未就学者との出会いを紹介

ねんたいしよくご おおさかしにしなりく みしゅうがくしゃ で あ しょうかい まな ば つるみばし
2017年退職後、大阪府西成区のある未就学者との出会いをきっかけに、学びの場「鶴見橋よみかきありがとうの
かい はじ
会」を始める。

こ とくじゅうぶんまな か こく じょうきょう なか い がくしゅうしゃ
子どもの時十分学ぶことができず、過酷な状況の中で生きてきた学習者たち。

じぶんじしん い みち さくぶん か ぶらくかいほうぶんがくしょう しきじぶもん じゅうしょう めい
自分自身の生きてきた道を書き、『部落解放文学賞 識字部門』で受賞(3名)。

◆ 「学ぶこと」の意味＝「学びの場」で大切にしてきたこと

まな ば にんげん とうぜん けんり と もど ば
「学びの場」は、人間として当然の権利を取り戻す場。

たがい せいかつし まな きずな ふか なか いままな けつ は じかく がんば
お互いの「生活史」に学び、絆を深める中で、今学ぶことが決して恥ずかしいことではないことを自覚し、頑張ってきた
じぶん さいかくにん
た自分を再確認。

しゃかい み め じんけん へいわ かん やしな せいかつ ゆた どうじ しゃかい はっしん
社会を見る目(人権や平和などに関しても)を養い生活を豊かにすると同時に、社会への発信も。

まな わたしじしん まな
学びあい・・・私自身も いっぱい学ばせてもらっている!